

経営講座

「新：高知県で儲かる会社を創る方法」

第14回テーマ

「高知県の地方自治体の力での「数多くの儲かる会社創り」は、こうすれば出来る。」

※他県の成功例、その3

市職員のアイデアで「地場産業を繁栄」させた成功例について詳説する。

ここでは他県の地方自治体の町長、地方公務員、住民による「数多くの儲かる会社創り」の成功例を紹介するが、ここで重要なことは、次に掲げる「環境創生勝利戦略」並びに「その戦略を成功させる為の勝利戦術」について、これらの戦略及び戦術が成功したからこそ「数多くの儲かる会社創り」が実現したものであり、これらの勝利戦略及び勝利戦術の成功要因に注視して熟読して欲しい。貴自治体での「数多くの儲かる会社創り」の実現を心より願っている。

「他県の自治体に出来て、高知県の自治体に出来ないことは無い」と私は確信する。

市職員の戦術（アイデア）で、資金無しで「地場産業を繁栄」させた例

【当時の環境】

山形県天童市は日本一の将棋駒の産地で、木製将棋駒の生産量は全国シェア9割を誇る。しかしながら言い換えると将棋以外は何もない街である。今のままでは天童市は衰退しても発展できない街だった。

【戦略】

『将棋製造業の繁栄戦略』並びに『ふるさと納税増加戦略』

【戦術】

- ①「ふるさと納税の御礼として将棋駒の裏に納税者の希望する文字を彫るサービス」戦術
- ②「将棋駒職人の仕事増加」戦術



出典：天童市提供

将棋しかない町の、この将棋を使って街の発展の為に何かできないかと考えて、天童市の沼澤賢次さんはふるさと納税に着眼し、そのふるさと納税のお礼の品に「おまけ」として将棋の駒のストラップをつけていたが、この将棋の駒の裏に、納税者の方が希望する好きな文字を彫るサービス戦術を始めた。

これがヒット。1つ貰うとついつい他の文字も彫って欲しくなるとあって大人気。ふるさと納税の返礼品については国より金額規制がされている現状において、金額ではなくて新しいサービスでふるさと納税人気を大ヒットさせている。面白い発想である。

【成果】

①ふるさと納税額が11万5,000円→33億5,800万円と激増 ②将棋職人の仕事と儲けが約3割～4割増 ③天童市の地方創生 ④資金不要、アイデア（勝利戦術）のみ

天童市のふるさと納税による寄付額は、2013年のスタート時は11万5,000円、2014年に、この「環境創生勝利戦略」並びに「その戦略を成功させる為の勝利戦術」をスタートしたところ、口コミで広がり、2016年にはなんと33億5,800万円となり、天童市の財政に大きく貢献している。

さらに、将棋界のプリンス、藤井聡太くんの効果も相まって、将棋駒を作る職人の仕事がこれまでよりも3割～4割ほど増加しているという。

正に、市の職員が策定した「環境創生勝利戦略」並びに「その戦略を成功させる為の勝利戦術」の成功が、市の税収を激増させて、また、多くの将棋職人の仕事と儲けも4割増となり、天童市における地方創生の一部を担っている。

※勝利戦術（アイデア）のみで（資金不要）、地場産業を繁栄させた例である。

< 龍馬社長大学 学長 奴田原 惇郎（ぬたはら・あつお） >